

六甲カトリック教会報

2005.7 No.403

7月のお知らせ

教会暦		教会行事
1	金	初金 7:00 10:00ミサ 婦人会例会
3	日	年間第14主日
9	土	14:30 教会学校終業式
10	日	10:15 壮年会例会
11	月	聖ベネディクト修道院長
15	金	聖ボナベントゥラ司教教会博士
17	日	年間第16主日
18	月	(海の日) 13:00 神戸地区Bチーム講演会 (六甲学院生徒研修所)
21	木	14:00 ベタニアの集い
22	金	聖マリア(マグダラ)
24	日	年間第17主日
25	月	聖ヤコブ使徒 11:00 ベビーとママの集い
26	火	聖マリアの両親 聖ヨアキムと聖アンナ
29	金	聖マルタ
30	土	10:00 祈りの道場(15:00ミサ)
31	日	年間第18主日 (イエズス会創立者・聖イグナチオ) 教会学校キャンプ出発(8/3まで)

「パウロの道を行く」巡礼に参加して

この度、5月9日より12日間の「パウロ道を行く」という巡礼に参加して参りました。コースは、関空からアムステルダムに飛び、そこからマルタ島へ、島で3泊した後シチリア島に渡って2泊、次にイタリア本土の南岸レジョ・カラブリアに渡りそこで1泊、続いてバスにて北上、ナポリに1泊、ローマへと向かい、ローマにて3泊の旅でした。

この巡礼は、「パウロの道を行く」と称して、使徒言行録に出てくるパウロの足跡をたどり、トルコ、ギリシア、と巡った後の完結編としてマルタからローマへと巡るといふ巡礼です。結果から書きますと、天気にも恵まれ、非常に密度の高い充実した毎日であったこと、又ガイド

の河谷龍彦さんは、信仰も深く、聖書にも詳しい名ガイドで、要所々々でそこに当たる聖書の箇所を朗読して説明して下さいます。

今日は、この記事で全体をまとめることはとても出来ませんので、その或る1日を簡単にまとめたいと思います。私たちは5月15日、聖霊降臨の日、イタリアのレジョ・カラブリア(パウロの時代、レギオン。使28章13節)の大聖堂にて日曜日のミサにあずかりました。最初の予定では、ミサに巡礼団として私も皆と一緒にあずかるという予定でしたが、教会のドン・ジヤニ主任神父様の所へ挨拶に行ったところ、一緒に共同ミサを捧げましょうという話になり、私も祭壇に登って共にミサを捧げることとなり

ました。大きなゴシックの教会で、大きさは玉造教会よりも広い聖堂でした。その聖堂に地元の信者が一杯、私共巡礼団はその1番前の所に席を与えられ、ミサの始まりにイタリア語で私たちパウロの巡礼団のことが説明され、大きな拍手がおこりました。

ミサはイタリア語で捧げられ、私はドン・ジヤニ神父様と大勢の待者に囲まれて祭壇の上に立ちました。日本でいう歌ミサで荘厳に始まり、聖書の第二朗読は阿部陽子さんも日本語で朗読されました。共同祈願の時に、私にも祈りなさいと言われたので、日本語で巡礼の感謝とイタリアの信者の皆様のため、短い祈りをとなえました。ホスチアの奉納の時は阿部さんのご主人、純一さんが奉げて進まれました。驚いたことにミサの中で「世界に広がるあなたの教会を思い起こし、わたしたちの教父ベネディクト16世・・・」と称える箇所に入る時、神父様は私に祈りなさいと勧められました。私はぶっつけ本番にイタリア語の祈りをローマ字式に読んで汗を流しました。後で巡礼団の人から神父様はイタリア語が出来るのですかと質問され、又汗をかきました。聖体拝領は六甲と同じように、司祭と聖体奉仕者の人幾人かで聖体をさずけました。私は「キリストの体」という祈りを、「コルプス・クリスティ」と昔おぼえたラテン語で祈り、信者に聖体をさずけました。

このようにして、ミサは無事に終わりました。信者さんの席からは大きな拍手がおこり、私たちに対する歓迎の気持ちが大きく伝わってきました。私たちは地元の信者の皆さんの信仰に、

言葉では表されない何か大きなものを感じさせられ、ミサが終わってバスに乗った時、自然に「よかったー。」という気持ち一杯に、皆の心の中に起ってきたことを誰もが感じたことと思います。

本当に感謝の一時でした。しかしこれは巡礼の間の一こまにすぎません。実際、毎日毎日が恵み多い巡礼であったことを神に感謝の気持ち一杯です。私たちは感謝の祈りの中に、次の目的地ポンペイへと向かいました。

安芸瑛一神父



祭壇上の安芸神父様



満席の聖堂内

各 部 会 だ よ り

👉 壮年会

7月例会：7月10日(日)10:15~

安芸神父様のお話を聴きます。

テーマ「パウロの歩いた道」

場所は第1, 2会議室です。

男の料理教室：7月20日(水)10:00~

👉 婦人会

< 7月行事 >

1日(金) 初金ミサ 10:00

例会のお話 高山神父様

昼食会 カレー当番：西3、4、5

よろしく申し上げます

< 7月掃除当番 >

1日(金) 中2・中3

8日(金) 中4・中5

15日(金) 西1・西2

22日(金) 西3・西4・西5

29日(金) 東1・東2

<お知らせ>

今年度の婦人会黙想会は養成部の祈りの道場(10月1日(土)池長大司教様指導)に共催という形で御一緒させて頂きます。どうぞ、多くの方御参加をお願い致します。

🙏三日月会

三日月会の七月例会は開催しません。

次回は九月第三月曜日に総会を実施します。

🙏青年会

<定例会>

日時：7月10、24日(日)12:30～14:00

於：第3会議室

内容：聖書研究(指導：高山神父)

初めての方も是非気軽に参加下さい！！

🙏社会活動部

1日(金)13:00～ 社会活動部連絡会

婦人会例会後に始めます。各グループの代表者(代わりの方)必ずご出席下さい。ポランテ

ィア等に興味をお持ちの方も、どうぞご自由に覗いて見て下さい。

6日(水)10:00～ 手芸の集まり

手作りのお好きな方、アイデアをお持ちの方、楽しい集いの仲間にお入りになりませんか？何方でもご参加下さい。

9日(土)9:30～ 炊き出し

教会の台所で準備し、用意が出来次第、小野浜公園に移動致します。ご協力宜しくお願い致します。

17日(日)9時のミサ後～ 手作りコーナー
イグナチオ・ホールにお立ち寄り下さい。

21日(木)14:00～ ベタニアの集い

追って御案内させて頂きます。

22日(金)14:00～ 須磨方面夜回りの為のおにぎり作り

🙏養成部

<祈りの道場>

第1回は7月30日、英神父様の指導により大聖堂で10時～15時(15時よりミサ)行います。

6月27日から7月18日まで箱を置きますので、参加希望者はお名前を書き入れて下さい。

第2回は10月1日(指導 池永大司教様)予定です。前回のお知らせでは10月8日を予定しておりましたが、この日は教会の大掃除に当たるため、変更となりました。

ホセ・ヨンバルト神父様への感謝

この4年余り、毎月後半の2週間東京から神戸に来て下さったヨンバルト神父様は、今後東京でのお仕事が多忙になったため、六甲教会での働きは7月末迄になりました。六甲教会では主日・平日のミサ、三日月会のミサとお話、信仰の勉強会(特に、スペイン語での勉強会) 壮年会へのお話、子供のミサと手品、結婚セミナーでの話しと結婚式司式、シスター方の修道院のミサなど精力的に奉仕してくださいました。婦人会新年会での抱腹絶倒の楽しい余興を覚えておられる方もいらっしゃるでしょう。周りの人々を喜ばせることが大好きな明るく楽しい神父様でした。

また、教会報に寄せられた多くの名文はユーモアに富みながら信仰の深みを伝える内容だったので、愛読者は若者・青年層にも広がったと思います。普段は法学者として研究と著作に専念されていますが、その傍ら海星病院看護学校やバイブルハウスでは専門分野の授業・講演にも協力して下さいました。私たちは感謝のうちに、ヨンバルト神父様とお別れをしたいと思います。ご本人の希望もあり教会として特別な集いはしませんが、7月17日(日)9時のミサ、24日(日)11時のミサを司式されることをお知らせ致します。

これからも健康に留意され、教会のため人々の救いのため、お元気に奉仕されますよう祈っております。ヨンバルト神父様、ありがとうございました。 主任司祭より

6月小教区評議会報告

日時：6月12日(日)10:15~

1. はじめの祈り

2. 報告事項

(1) 神戸地区評議会議長選出と引継ぎ

5/1の地区評議会(於:三田教会)で鈴木肇(六甲評議会議長)氏が地区評議会議長に選出。2~3ヶ月の引継ぎ期間中は橋本前評議会議長(明石教会)と共同で、9/4(於:六甲教会)の地区評議会から単独で活動開始予定。

(2) 主任司祭からの報告

司祭の夏の予定と異動

ヨンパルト神父:東京専任がきまり、7月末で4年に亘る六甲教会での奉仕終了。

コリンズ神父:夏の間お手伝いに来られる。

海星病院の聖堂奉仕

再建後の海星病院内新聖堂の管理・運営を六甲教会が担う。聖堂の掃除・ミサの準備など聖堂奉仕の必要あり。覚書を交わした後、詳細決定していく。

大阪大司教区司祭給与分担金

本年度分担金(六甲教会分)の依頼額の約2/3額の支払いを決定。

(3) 「夙川祈りの家」の廃止

家屋の老朽化、将来発展の可能性も少ないため、廃止を決定。

(4) 合同堅信式(5/15) 多くの子供たちが堅信を受け、喜ばしい日であった。

(5) シルバーコース神戸地区の集い(6/8、於:六甲教会)

大司教を迎え、94名(うち70名六甲教会。10名スタッフ。)の参加。9グループに分かれての分かち合いとミサが良い雰囲気のうちに行われた。

(6) 各部会報告

(教会学校) キャンプ予定:7/31~8/3
高山神父同行。

(中高生会) キャンプ予定:8/12~8/15
桜井神父同行。

(婦人会) 10/1「祈りの道場」と共催で
黙想会を予定。

(広報部) 古いアルバムのデジタル化・管理リスト作成予定。将来、検索・閲覧も考慮。

3. 議題

(1) 神戸地区評議会の各種活動との連携確認 シナピス、社会活動神戸センター

神戸地区社会活動セクションの共同体「シナピス神戸」(神戸地区各小教区、修道会、社会活動神戸センターで構成)が正式発足。東ブロック代表運営委員として長瀬三千子氏、事務局員(場所:神戸中央)として山本順子氏が奉仕。懸案の支援分担金、本年度は不要。

広報 地区広報誌「つながり」編集への藤井敦子氏の日頃の協力に感謝。

(2) 教会行事の準備(行事部)

納涼の夕べ(8/20):6/26(日)11時
ミサ後、第1回実行委員会(責任者:青年会 川崎・井谷) 壮年会、婦人会、青年会、中高生会、教会学校、施設管理部、地区会代表者出席のうえ、各会の出し物、ステージ上出し物など決定。

バザー(11/13)実行委員会設立:壮年会より実行委員長選出。9月頃より準備開始。

(3) 各部会の討議事項

(施設管理部)

イグナチオホールテーブル:回転式テーブル21台購入決定。現在使用のものは、廃棄の前に、他教会や釜ヶ崎などの各施設に引取希望を募る。

不動産検分:竹中工務店による調査結果報告。緊急修理のいる5案件(漏水)は直ちに着手。うち2件はすでに無償で終了。今後の維持保全管理は竹中主動で進める。定期的検分を行い、常に不具合懸案箇所を洗い出し、対処していく。

(教会学校) 備品購入確認:アコースティックギターとスキャナー一体型プリンタ購入。
(典礼部)

「主の降誕」ミサと元旦ミサの時間
12/25(日)主の降誕ミサ:7時、9時、11時

1 / 1 (日) 元旦 神の母聖マリアミサ：
0時、7時、11時(12/31日19時ミサなし)

ミサ前後の沈黙
口頭で繰り返し沈黙を促していくことが先
決。その後、オルガン演奏など考慮。

聖堂オルガン
近々、日本オルガンによる整備点検。今後
3～5年に1度の定期調整。(調整日は終
日オルガン使用不可)あわせてスピーカー

の祭壇上部天井への移動設置検討。

聖書と典礼：大判の残部数が多い為、小
判を250 350部、大判300 200部へ変更。

(4) その他

(提案) 聖堂内壁・外壁へのスライド投影：
典礼部と施設管理部で可能性を検討。

4. 次回小教区評議会：10月9日(日)10:15～

地 区 会

本山地区集会(5月21日)

今回初めて地区会に参加させて頂きましたが、とっても暖かな雰囲気にも包まれたひと時を過ごさせて頂き、どうも有難うございました。緑滴り風薫るこの時期に、お天気にも恵まれ、六甲学院の庭園で、小鳥のさえずりをBGMに野外ミサに与らせて頂き、本当にうれしいことでした。企画してくださった方にお礼申し上げますと共に、いろいろお世話して頂いた方々に、厚くお礼申し上げます。どうも有難うございました。

(鍵山泰三・昭子)



みどり濃き樹間に現世見はるかす

恭子

東灘区第9地区集会報告(5月30日)

今回はヨハネ・パウロ2世ご帰天、そしてベネディクト16世新教皇誕生、という教会史が一つ加わる中での集まりでした。このような時期にふさわしく、参会して下さった安芸神父様は、過去の教皇様方のお働きや公会議のことなど興味深いお話をたくさん聞かせて下さいました。また5月に神父様がマルタ島へ巡礼なさった祈りの体験談も披露して下さい、出席者7名の信徒の方々からは信仰上の種々の質問なども出て、1時半から4時までお茶を頂きながら和やかに過ごすことができました。最後に皆様と新教皇様の為にロザリオ一連を捧げ、神父様の祝福を頂いて終了致しました。神に感謝。

(沖 裕子)

難民支援グループ「ルチア」活動報告

署名活動の御礼と報告

5月29日から3週にわたり行いました「ビルマ人難民認定申請者マウンマウンさんへの在留資格許可の要請」の署名活動には263名の方

がご署名下さいました。誠に有難うございました。多くの方が、難民問題に関心を持ってご署名して頂いたことを大変嬉しく思っております。13日、教区難民デスクに送付致しました。集ま

りました署名の 10 分の 1 が六甲という報告を頂いております。6 月 15 日の高裁判決では、難民不認定、強制退去令などが取り消され、高裁初の難民認定となりました。在留資格も取得できることでしょうか。後に続く難民裁判の当事者、支援者にとって、大きな喜びと励みになりました。私たちに出来る小さなことから関わり、協力してゆきたいと思います。今後とも、ご理解、ご協力を宜しくお願いいたします。感謝！

3 月下旬、シナピス難民デスクから、神戸に住む難民、S さんの生活サポートの依頼を受けました。たった 2 ヶ月のサポートでしたが共に歩む中で、社会的弱者とされている人たちの思いやりの深さと優しさ、逆境にあって精一杯生きようと頑張る彼らの姿を通して、私達は自分の中の偏見に気づかされ、彼らが今日一日を生きることがどんなに大変なことなのかを教えられました。ここに、勇気を持って投稿を許してくれた S さんの人生の一部分を皆様に読んでいただきたいと思います。

「頑張って！S さん」

入管で初めて会った S さんは顔色が悪く、遠慮がちに体調の悪いことを話されました。きれいな日本語で、昔住んでいた神戸のことを懐かしく話してくれました。体力的に入管での生活が危ぶまれるようになり、身元引受人と保証金の準備が整い、彼は仮放免され、神戸に住むことになりました。自分の国はビルマと言いつける彼の親族は軍事政権前の政府の重鎮でした。他の兄弟は国外に逃げ、今も民主化運動をしています。S さんは、企業の研修生として来日し、神戸に住み、日本人の奥さんと結婚し、物資提供という形で母国の民主化運動を支援していました。そんな折に、阪神淡路大震災に見舞われ、ポートアイランドにあった会社はなくなり、その上 S さん自身が交通事故に遭い生活は一変します。長期にわたる失業と怪我の後遺症に苦しんだ S さんはお酒に走り、とうとう奥さんはそんな S さんに愛想をつかして家出してしまいました。彼はますますお酒に浸る毎日を送り、つ

いにアルコール依存症となり、入退院を繰り返すことに。退院した日、ビールを飲んで喧嘩をし、警察の御用となった後、配偶者ビザが切れたことが理由で入管送りとなりました。二度と飲酒をしないことが、今の彼には一番大事なことでした。もう失敗は許されないことを彼も良く分かっていました。S さんとルチアの二人三脚の AA (アルコール依存症の人達の自助グループの会) 通いが始まりました。以前にも何度か体験していた彼は、積極的に発表もし、AA のメンバーの優しさに励まされ、一人で通い始めました。依存症の怖さ、もう決して飲まないことを誠実に話してくれます。難民不認定処分取り消しの裁判を引受けて下さる弁護士さんも決まり、今日に至るまでの克明な記録をとり、毎日精一杯過ごしていた彼も疲れ切っていたのでしよう、救急車で病院に運ばれる事態となり、私達は検査を先行しなかったことを深く反省した次第でした。

幸い検査の結果は思っていたほど悪くなく、飲酒しなければ大丈夫と分かりました。裁判が大阪であること、知人宅での病気療養が難しい事などから、シナピスの準備した大阪の家に移ることになりました。検査結果を聞いた帰り、ポートライナーから懐かしい仕事場のあったビルを眺め、住んでいた中山手を歩き、入退院を繰り返した谷上の病院を訪ね、新たな生活を始める為彼は大阪へ向かいました。

今、彼は他の難民さんと共同生活をしながら、裁判に向けての準備、仕事で必要になるであろうパソコンの習得、シナピスの手伝いと、置かれた状況の中でベストを尽くして頑張っています。弁護士さんは自費で証拠集めの為にミャンマーに赴き、裁判書類の翻訳には、佐藤晶子さんが携わって下さっています。

5 月 25 日待ちかねた第 1 回公判が始まりました。これで、判決までは再収容を畏れずに暮らせます。S さん、頑張れ。皆が貴方を見守っています。
(長瀬三千子)

神戸東ブロック合同堅信式

5月15日（聖霊降臨の祝日）に神戸中央教会で合同堅信式が行なわれ、六甲教会からは20名が堅信を受けました。

《堅信の秘跡を授かって》

今日わたしは堅信を受けました。

堅信式のごミサは中央教会であり、なんと日本語・英語・スペイン語の3ヶ国語を使って行うというとても国際的なごミサでした。わたしにとってそんなごミサは初めてだったので、3ヶ国語が混ざっていてちょっと不思議な感じがしました。

わたし達はこの日のために炊き出しをしたり、召命について話していただいたり、堅信とはどういうことなのかをみんなで分かちあったりとたくさんの準備をしました。その中でわたしは、お祈りを通して自分の将来を考えたり、自分がこうしたいと思った道を進んでいけたらいいなと思いました。

堅信式は、たくさんの方たちが見守ってくれている中で行われ、たくさんのお恵みをいただくことができ、とてもうれしかったです。

今日のためにたくさんの人たちに協力してもらい、そして今日堅信の秘跡を授かることができました。今までお世話になった人たちにとても感謝しています。

これから一人の信者として、困っている人がいたら手をさしのべてあげられる人になれるようがんばりたいです。
(マリア高橋愛満)

私は今回堅信を受けることができ本当に嬉しかったです。ミサ中はずっと緊張していて大変でしたが、多くの人たちから祝福されていると思うと自然に笑顔になれました。又、堅信式までの準備期間中、神父様やシスター、その他3人の方々から色々なお話を聞くことができ、学んだことも多かったように思います。その中でも祈りについてのお話が一番心に残っているので、これからは祈る心を大切にしていきたいと思いました。ありがとうございました。
(幼きイエズスのテレジア横山繭)



<喜びの皆さん>

震災支援を受けて交流 ～ベルギーで感謝のことばと合唱～

六甲教会を拠点に活動をしているカメラータ神戸が、阪神大震災の折に神戸市民の為に聖母子像(レブリカ)を送ってくださったアントワープ市民の皆さんに対し恩返しとして、アントワープのノートルダム大聖堂で6月19日に、ミサ曲を歌いました。また、ミサの中で六甲教会からのお礼のことばとして、鈴木評議会議長のことばが朗読されました。そのことばをご紹介します。

お礼のことば

親愛なるアントワープのみなさまへ

遠い神戸の六甲カトリック教会の信徒を代表して心からのご挨拶をさせていただきます。

ちょうど10年前の阪神大震災の後、被災したわたしたち神戸市民の心を慰めるため、アントワープのみなさまのたくさんのお祈りとご協力のもと、善意のこもった素晴らしい贈り物を下さいました。由緒ある芸術作品を多く所蔵されるアントワープ聖母大聖堂から、特にその守護聖人である聖母マリアの母子像を頂き、ほんとうに感動いたしました。

早速、私たちの教会の古い鐘楼の北壁に大きなガラス張りのくぼみをつくり、四季折々の花を絶えさないように飾って、その中に置きました。表通りからもよく見えるので朝夕通学するたくさんの学生や市民の目にも留まっています。

このようにして優雅なマリアさまの像はわたしたちに柔らかな微笑みをいつも投げかけてくださっています。それは六甲教会の信徒だけではなく、多くの神戸市民の慰めになりました。毎年1月17日の震災記念日にはこの像の前に集まってお祈りをささげています。

古い歴史の中ではアントワープの人たちも多くの災いに遭遇されたと同じでした。でもきっとそのとき市民のみなさまも守護聖人であるマリアさまに立ち上がる勇気をお願いされたことでしょう。私たちも同様にマリアさまとみなさまの熱き祈りに支えられて希望のうちに勇気を持って生きる力を頂いております。ありがとうございました。

本当は一度ご当地を訪れ、直接お礼を申し上げなくてはと思いつつ失礼致しております。この度、演奏旅行のためにアントワープを訪れるわたしたちの仲間、カメラータのメンバーにこの願いを託すことをお許し下さい。

アントワープのみなさまの上に主のお恵みが豊かにありますように。

2005年5月 マリアさまの月に

📖 図書紹介

『待ち望むということ』

ヘンリ J.M.ナーウェン著
あめんどう社

著者は1932年オランダ生れのカトリック司祭である。彼の著作は30冊以上に及ぶが、この本はその中での一つの小品である。その短さにもかかわらず読む者の一人ひとりの心に届く静かで豊かなメッセージを得ることができる。

殆どの人が「待つ」という態度は時間の無駄だと考える今日、待ち望みつつ生きることの、霊的な意味について深く考えさせられる。

本書の中に、癌に臥す身となって絶望の縁に沈んだ働き人がナーウェンと1冊の本を読んで霊的に息を吹き返すエピソードが載っている。彼はかつて社会的に有為な人材であり、活動的な働き人であったのである。しかし、いまや彼

の前に待っている運命は、まったく無力であり、排泄の始末さえすべて他人に頼り頼まないでは生きていけない「無力な存在」としての生き方であった。彼はナーウェンに問う。「もう何もすることのできない自分を、どう考えたらよいか助けてくれないか？」こうして彼はナーウェンと二人でイエスの生涯を改めてたどることになり、イエスの生涯もまた「死に渡される」前後で二分されていることに気づくのである。すなわち、主体的、能動的に生きられた人生の前半と、まったく受動的、委任的に生きざるを得なかった人生の後半の両者が、神の御手において等しく価値を持つということの発見である。苦しみと受難のさなかに、自分で何も操作できなくなった時こそ、待ち望むことの中に、神の愛が働き、復活を予知する経験が与えられる…と述べておられる。(釜田あつ子)

7月号のテーマ：わたしたちのミッションを勇気付けるイエス

祈りの旅はいよいよ終わりに近づきました。これから、今までの祈りの体験を現実の日々の生活においてどのようにしたら生かせるか、ヨハネ福音書の最後の章で、イエスとペトロの対話の場面を深めていきましょう。

イエスの復活後、弟子たちはどのように生きてらよいかを考え、結局彼らはペトロに従って「以前の漁師」としての生活に戻ります。実際に、彼ら自身は何をすれば復活のイエスに従うことができるのか分からないから、「とりあえず」という理由で過去の生活に戻ることになります。たぶん、私たちも弟子たちと同じ迷いを体験し、祈りの旅が終わって、以前と同じ環境や状況に「とりあえず」戻ろうと思うかもしれません。

しかし、弟子たちが迷っているところに、再びイエスは現れました。今回、イエスは彼らの使命を「再び」確かめるために現れました。初めてイエスと出会った時に、彼らは既にイエスから、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」(マタイ 4:19)と言われました。そこで、イエスは「再び」彼らにその使命を思い出させました。「網を打ちなさい」というイエスの指示通りに従うことによって、改めて彼らは自分の使命を心の中で意識するようになりました。

今月の祈りを通して、復活後における弟子たちの福音宣教への情熱を味わいながら、これからもイエスから受けた喜びやエネルギーをたくさんの人々に分かち合い、味わってもらえるように、そのための勇気と力を願います。

【聖書の参照】ヨハネ 21:1-14(ティベリアス湖畔での出現)、ヨハネ 21:15-19(イエスとペトロ)、マタイ 28:26-20(弟子を派遣する主)

バンバン神父

教会報7月号の発行は、7月31日(日)です。 編集会議は7月24日(日)です。 記事原稿は、7月17日(日)正午までに信徒会館事務室へご提出願います。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp	六 甲 カ ト リ ッ ク 教 会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電 話 0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6 発行責任者 桜 井 彦 孝 神 父 編 集 広 報 部
---	--